



おかげさまで40th

物流ニッポン

2008年(平成20年)

6 | 5 (木)

発行/月曜日・木曜日 第3138号

購読料/半年32,130円(月額5,355円、税込)

©物流ニッポン新聞社 2008 (昭和44年4月1日第三種郵便物認可)

倉庫・運送 全国ネット構築

「ネットイー・SCM研」連携

共同物流、受注本格化

【石井麻里】協同組合物流情報ネット・イー(大谷蔵一理事長)とSCM共同ネット研究会(滝沢保男幹事長)は連携を強化、ネットイー組合員のイーソーコ(遠藤文社長、東京都港区)の倉庫情報とSCM研の会員運送会社のネットワークを組み合わせ、倉庫・運送の全国ネットワークを構築、中小物流会社の新しいビジネスモデルを共同で推し進める。

中小の新ビジネスモデル

ネットイーは、中小ので設立された。情報技術器とした中小物流会社の倉庫会社と運送会社など(IT)を活用し、都共同受注を目指して、六社(秋元運輸倉庫、東心、内陸、港湾)に立地する。運送、丸新運輸、拓洋、倉庫会社と運送会社が館林運輸、イーソーコ)連携。一貫物流体制を武

SCM研は、SCMサプライチェーン・マネジメント)の全体最適や循環型物流など高付加価値ビジネスに着目。運送会社やITベンダー、荷主など二百六十社の会員ネットワークを結び、プロジェクトまたは広域でプロジェクトを推進。共同物流ビジネスのキックオフに備えている。



(左から) 握手を交わすネットイーの大谷理事長、鈴木事務局長、SCM研の滝沢幹事長

従来、ネットイーでは共同物流事業の受注エリアが限られており、イー

ここで、両者のネットワークを組み合わせ、共同物流インフラを強化する。

ハード面では、ネットイーが市街化調整区域で計画している「共同物流センター」をSCM研のメンバーも利用できるようにする。ソフト面では、ネットイーで倉庫管理システム(WMS)を進めている運送管理システム(TMS)とデー

た、SCM研では、倉庫に関する案件があつてしきれていなかった。また、SCM研では、倉庫開発し、SCM研が導入を進めている運送管理システム(TMS)とデータ共有を図る。ネットイーの鈴木事務局長は「発足時は、運送、倉庫、ITのコラボレーションによる共同受注を目指したが、限られた地域での活動になっていた」と指摘。イーソーコの物流不動産ビジネスのスキルも強味に「倉庫を活用した本格的な共同受注につなげていきたい」と意欲をみせた。SCM研の滝沢幹事長は「全国共同物流ネットワークを強化し、共同で顧客を開発したい」とした上で、「運送会社、トラック、ドライバーの数が減り、物流マーケットは縮小するのは。運送会社が利益を出す事業構造を創造するためのシンクタンクになりたい」と強調した。